

AYA 世代（思春期・若年成人）
と希少がん

(あやせだい（ししゅんき・じゃくねんせいじん）ときしょうがん）



AYA 世代のがんについて

AYA（アヤと読みます）とは Adolescent & Young Adult（思春期・若年成人）のことであり、一般には 15～39 歳の世代とされています。この世代は小児から成人へと移行していく時期にあたり、小児に好発するがんと成人に好発するがんがともに発症する可能性がある年代と言えます。また、骨軟部肉腫などのように AYA 世代に多いがんも存在します。AYA 世代に発生するがんはその多くが希少がんに分類されるものであり、またその総数も比較的少ないとされています。この世代の新たながん患者発生数は年間約 2 万人で全体の 2.5% に過ぎません。しかし、AYA 世代の病気による死亡原因のトップはがんによるものです。AYA 世代は就学や就労、結婚や出産、育児といった、様々なライフイベントが起こる時期であり、がんに罹患すると、その治療の過程において、通学や仕事の継続に支障をきたすことが往々にしてあります。また治療の影響により不妊となることもあり、出産や育児への影響も小さくありません。さらには、仕事の継続が難しくなることもあり、金銭面の問題も看過できません。このような要因から、AYA 世代のがん診療は、医学的な面だけでなく、AYA 世代に特有のさまざまな問題点に配慮した精神的・社会的な面からのサポートが必要となります。

AYA 世代のがんと他の世代のがんとの違い

一般に小児に発生するがんは小児科医が、また成人に発生するがんは各専門医が、それぞれ診療にあたりますが、AYA 世代にはその両方のがんが発症するため、専門的に診療にあたる医師が比較的少ないという問題点があります。また特に 10 代に発生することが多いがんには、白血病、胚細胞腫瘍、骨軟部肉腫、脳腫瘍といった、いわゆる希少がんが多いため、時に診断や治療が困難なこともあります。また、AYA 世代に発生するがんは、15 歳未満の小児や 40 歳以上の成人に発生するがんと比較して一般的に予後不良であることがわかっています。この理由として、AYA 世代がんの生物学的特性や化学療法抵抗性が成人とは異なること、比較的進行期での発見が多いこと、さらには AYA 世代がんを対象とした臨床試験が少ないことなどが挙げられています。

AYA 世代がんサバイバー

がんサバイバーとは、がん治療を終了し、がんを克服した人だけでなく、現在治療中の人、さらにはがんとともに生きている人までを含む、「がんを経験した」人のことを指します。AYA 世代のがんサバイバーには、大きく分けて 2 つのグループがあります。それは、AYA 世代でがん罹患された人と、15 歳未満の小児期にがんを経験し、現在 AYA 世代となっている人です。この 2 つのグループの間には、がんの種類の違いや晩期合併症（治療終了後数年～十数年で発生する健康上の問題）などが異なる傾向があることが知られています。

